

連携

栗原市立栗原中央病院

広報誌 令和5年6月発行

編集 地域医療連携室

第86号

病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にできる最善の医療を行い、地域に貢献します

基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます



コロナ後（？）の地域連携

院長 中鉢 誠司

5月8日より新型コロナウイルス感染症は5類となりました。ウイルスの性質が変わるわけではないので連休明けの流

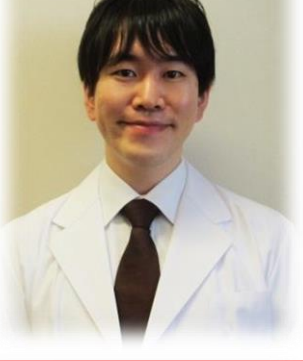
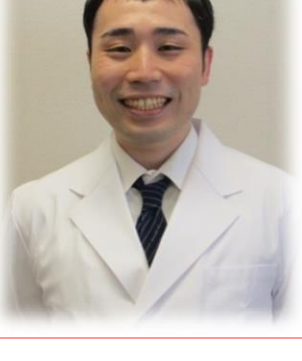
行を心配しましたが、思った以上に感染は広がらず、ほっとしています。これまでの3年間コロナ感染症の診断、治療、介護、予防等にかかわって来られた皆様、本当にご苦労様でした。ただ3密を避けた影響もあって各々の医療機関や介護施設は孤独な戦いであつたし、地域の連携という意味では弱体化した3年間であつたかと思います。当院でもこれまで行ってきた「連携のつどい“よらいん”」や「病院祭り」など医療介護関係者や市民との交流のための会は、例年通りには開催出来ませんでした。また、面会制限などの影響で退院支援が進まず、在院日数が大幅に延長しました。今後コロナ感染症がどうなるのか分かりませんが、これからも新たな新興感染症や地震を含めた災害の発生など危惧されています。どんな状況であれ、ICTなどを活用しながら地域の連携や情報提供・共有を図る仕組みを構築していきたいと考えています。

栗原市の高齢化率は40%を超えており、そのうち85歳以上の人口はしばらく多いままで推移します。昨年度当院の入院患者の38%、救急搬送患者の41%が85歳以上で年々増加傾向となっています。85歳以上の患者さんたちは自力で通院が難しくなり訪問診療（在宅医療）に移行する割合が高いと言われていますので、今後栗原市でも在宅医療の需要はますます高くなると思われます。実際当院の入退院経路として在宅医療を受けている自宅もしくは施設から（へ）の入退院が増加傾向にあります。コロナ過で出来ていなかった在宅医療との連携強化も今年度の目標としたいと思います。

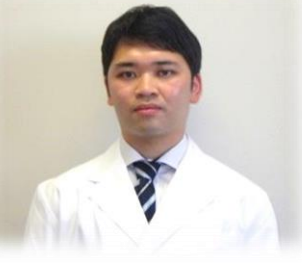
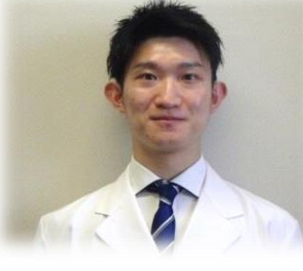
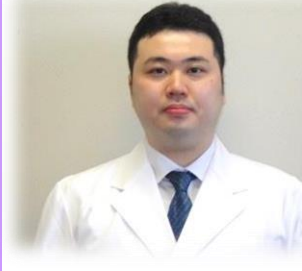
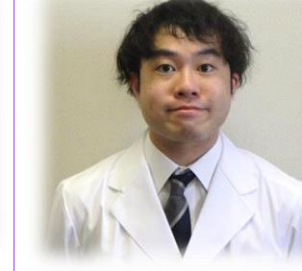
今年度の当院の体制ですが、皮膚科と眼科は非常勤となり眼科は週3回、皮膚科は週1回の外来となっていました。皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、地域で協力して診ていければと思います。一方内科では糖尿病グループの医師が増えましたので、糖尿病患者さんの情報共有（地域連携パス）の仕組みを作っていきたいとの要望も出ていますので、今後の糖尿病連携に関して御協力をお願いいたします。

新規採用医師紹介

令和5年4月1日付けで採用となりました先生方です。
どうぞよろしくお願い致します。

	内科副医長 さいとう たかはる 齋藤 孝晴 この度栗原中央病院で勤務いたします。出身は登米なのでこの地域の医療に貢献できるよう努力して参りますので、よろしくお願いいたします。		内科副医長 さいとう はるき 佐藤 晴紀 今年度より栗原中央病院に赴任になりました。消化器疾患を中心に内科全般の診療にあたります。どうぞよろしくお願い致します。
	内科医員 おおとも りな 大友 莉那 本年度より栗原中央病院に赴任となりました。栗原地域の医療に貢献できるよう精一杯努めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。		内科医員 きむら ちひろ 木村 千尋 4月より赴任しました。木村千尋です。患者さんのためにがんばります。
	整形外科医員 ちば だいすけ 千葉 大介 栗原市の医療に貢献できるよう努めます		循環器内科医員 やすかわ はるか 安川 遥 地域皆さんの健康を目指して頑張ります！

臨床研修医紹介

			
あいざわ まさや 相澤 雅也	え ど ゆうせい 江戸 雄星	さいとう あきのり 佐藤 彰紀	さいとう たくま 佐藤 祐真



人事異動

令和5年3月31日付け退職



小児科医長	齋藤 龍彦	内科副医長	岡田 将平
内科医員	滝井 孝英	内科医員	山内 健太郎
整形外科副医長	木村 礼	眼科副医長	浅野 良視
皮膚科副医長	大熊 崇生	大変お世話になりました	

がんサロン「サロンdeよらいん」開催

がんサロン「サロンdeよらいん」、今年度は奇数月の第2火曜日に定期開催することになりました。以前のようにお茶を飲みながら近況報告などができないことから、今年度は体験活動を多く取り入れながら活動していく予定です。

令和5年5月9日（火）に今年度最初のがんサロンを開催しました。今回はお数珠づくりをしました。参加者は天然石が持つ力の意味を考えながら、慎重に石を選び、色合いを確かめながら制作していました。以前にも体験したことがある参加者が多く、あっという間に出来上がりました。完成した参加者は臨床宗教師のみなさんに「念」を入れて頂き、作品を見せ合っていました。また、参加者が楽しみにしているリハビリスタッフによる体操や木田先生からは「日本の神話」の講話を頂き、笑顔で会を終えることができました。



次回は7月11日となっております。身近にがん療養中の方やご家族、がん体験者がいらっしゃいましたら、がんサロン「サロンdeよらいん」をご案内ください。

地域医療連携室 相談員紹介

当院では、各病棟に専任の入退院支援職員を配置し、患者さまが安心して入院生活を送り住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、入院早期から退院に向けた問題点、課題などを多職種で話し合いながら退院支援計画を立てています。患者様・ご家族様に退院後の生活について説明をしたり、想いに寄り添いながら相談・支援に努めています。



今年度、新メンバーを迎え、新体制で相談業務を行う社会福祉士を紹介します。

名 前	担 当 病 棟
佐藤 祐介	3階西・4階東（循環器疾患）
遠藤 志麻	2階東・4階西
遠藤 理美	3階東・4階東
佐々木 アス香	5階西・5階東

紹介していただく先生方へ

病病、病診連携を積極的に推進していくために、他医療機関からのご紹介患者様の予約をお受けしております。ご紹介の手続きは、次のようになっています。

【外来診療の予約の流れについて】

1. 当院専用の「**紹介患者受診依頼票**」に必要事項をご記入の上、地域医療連携室直通 FAX(0228-21-5336)に**診療情報提供書**とともに**お申し込みください**。
2. 当院担当医師と連絡調整し、予約日時を決定します。
3. 予約日時が決まりましたら、速やかにご紹介医療機関に FAX にてご予約の回答をいたします。
4. 「紹介患者受診依頼票」「診療情報提供書」を患者様に受診時に持参していただくようお願いいたします。
5. ご予約の回答 FAX は、患者様控えになります。日時、持参する物などが記入されておりますので、患者様にお渡しくださいますようお願いいたします。

受診希望日を
忘れずに
ご記入ください



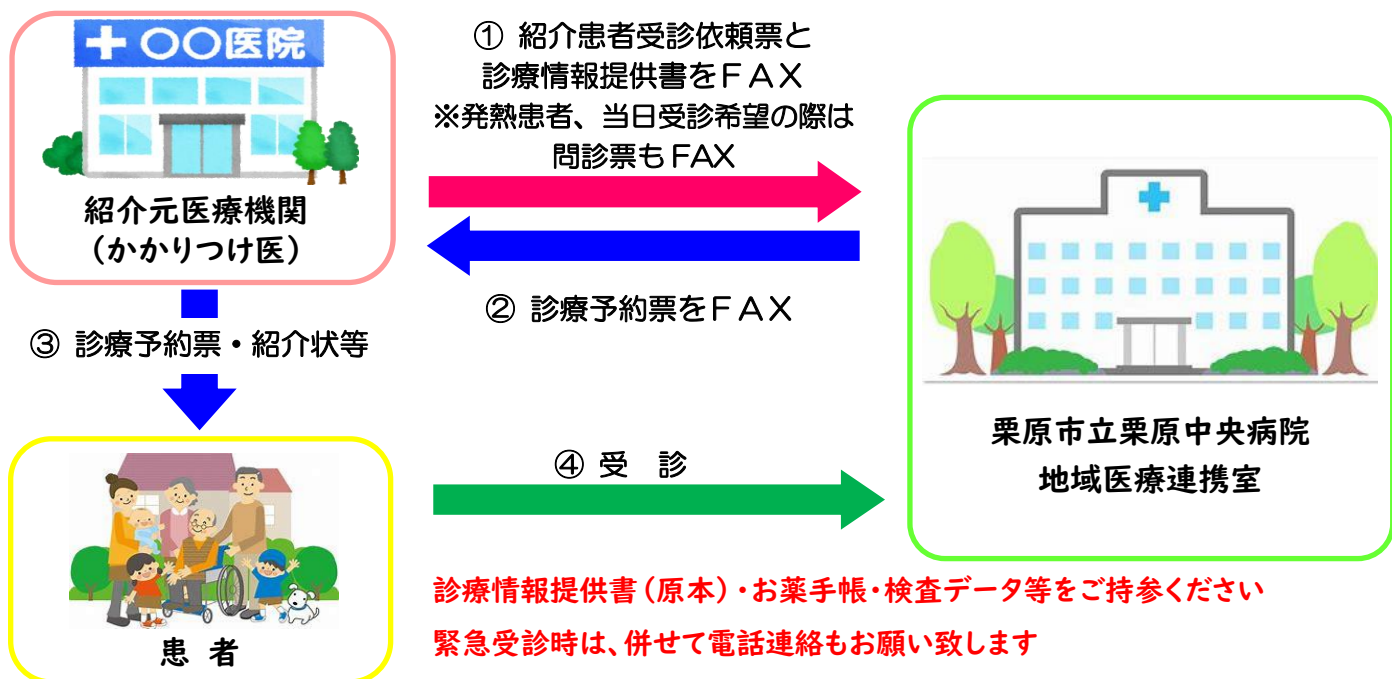
※以下の診療科は**予約診療**となりますので、事前にお問い合わせください。

- ・消化器疾患 ・糖尿病疾患 ・脳神経内科 ・心療内科
- ・血管外科 ・甲状腺外科 ・乳腺外科 ・皮膚科
- ・整形外科 ・肩外来 ・スポーツ外来 ・眼科

現在の体温、車番の記入も
お願いいたします



※発熱患者様ならびに当日受診依頼患者様は、「**発熱問診票**」もご記入の上、FAX ください。



【編集後記】

ようやく集合・対面形式の研修会が可能となり、地域の医療介護福祉関係者と顔の見える関係づくりを目的に連携室主催の「連携のつどい“よらいん”」を再開していくことになりました。人数の制限はありますので対象者を限定しながら、連携強化を図っていければと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

栗原市立栗原中央病院

〒987-2205
宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地
(代表) TEL: 0228-21-5330 FAX: 0228-21-5350
地域医療連携室
(直通) TEL: 0228-21-5335 FAX: 0228-21-5336
<http://www.kurihara-central-hp.jp/>